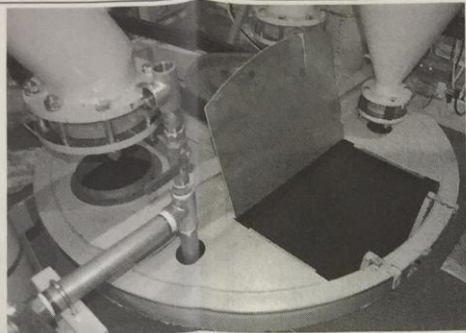


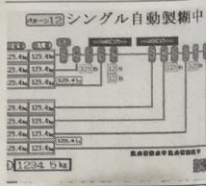
糊質向上、人手不足に対応

中川商会製糊装置「GBR-A」20台達成 小ロット強化に

（株）中川商会（名古屋市中区）は、コルゲータ用新型全自動製糊装置「GBR-A」シリーズでの販売実績が20台を達成した。昨年3台を納入、製糊専門の人員不足、糊の品質安定化など様々な問題への対応力がユーザーから評価される。今後も小型タイプなど、現場ニーズを掴んだラインナップを強化し、拡販を図っていく。



独自開発した攪拌技術で、省エネに貢献する糊を製造

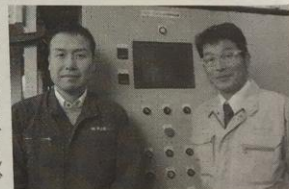


製糊装置は「コンスタ」など各種工程で自視確認し、苛性ソーダ、水、ホウ素など原材料を投入的、常時監視で人員を攪拌し糊を作り、グルーマシンへ送り込む。GBR-Aの強みは、製糊工程での無人化と糊の安定生産を実現している点。だが業界では、原材料を一つずつゲージや量りて測定し投入、加熱や攪拌

塗中作業を不要にしたこと、作業時間はセット時のみ1日30分程度、一例として、反応式では一バッチ当たりの製糊時間が約1時間半以上、しかも仕上がりが時間が不安定で、複数回の製糊が必要

用し、糊を切断することが高濃度の糊を低粘度で製糊可能。高濃度で保水性、初期接着性能の高い流動性がある糊を作り出す。水分が少なく低い熱量で乾かすためライナへの熱ダメージを抑え、反りなどロスを減らし光熱費の削減も実現する。

近年は小ロット化が進み、A、G段、W、耐熱、強化など複数パターン切替えが可能。これにより、シート切り替え時のロスも減らす。製糊中に停電などトラブルで停止した場合、自動運転継続が半自動への切り替えが可能。そのため、同機を作り上げてきた



同機を作り上げてきた太田政伸中川商会課長と、左から熊澤政士熊澤機工業務品質に支障が出そうな場合は半自動で修正しながら再開でき、糊の廃棄ロスを抑え、処理費用を削減する。導入工場では大手、中小問わず、「シート生産平米が変わらないのに、糊の使用量が減った」「ボイラーの圧力を下げられて反りが減り、強化しんの生産速度が上がった」「糊室が無人になり、装置周辺がキレイになった」「製造データが自動で残せるので、糊や環境が急変動しても、すぐ対処できる」などの評価が寄せられている。

中川商会では「当社で

蓄積した現場ノウハウを活かし、長年の多種にわたる産業機器製造・メンテナンスを積りてきた熊澤機工（京都市南区）と共同開発した。原燃料費の高騰や人手不足など、後更に厳しくなる中、確実にメリットを提供できる設備なので、是非導入を検討してほしい」としている。

問い合わせは052-201-2471。

段古紙輸出価格
11万6700円
2月・関東
関東商組の2月積み古紙輸出の問題販売価格は、段ボール2千ト加重平均は11万6700円だった（1月は同11万9